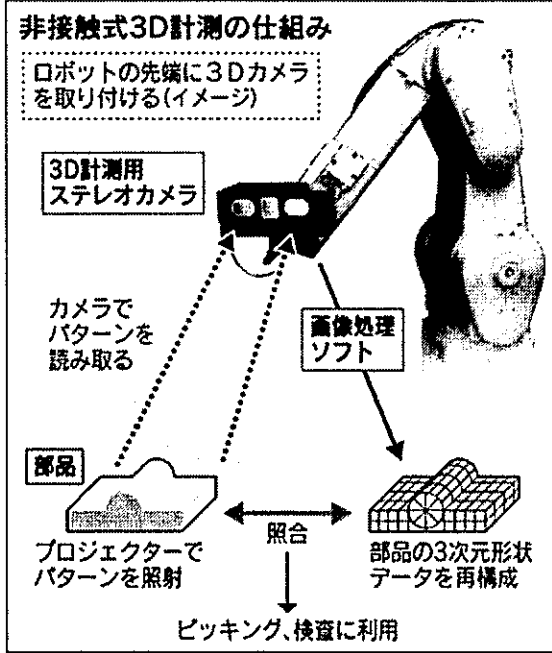


ロボ、部品を高精度認識

0.2秒で0.1ミリ単位 3D計測

画像処理のYOODS（山口市）はロボットを使ったピッキングなどに威力を発揮する工場向けの高精度3次元計測システムを開発、来夏から販売する。0.2秒で0.1ミリの精度で物体を認識でき、ロボットに取り付けて部品のピッキング作業や精密測定の一「目」として使える。価格は300万円程度と同様の海外製品などの約3分の1に抑え需要を開拓する。



YOODS 寸法検査・仕分け向け

システムは3次元計測カメラとプロジェクターを一体化した装置と画像処理ソフトで構成する。プロジェクターで対象物の形を読み取るために光学的なパターンを連続的に投影し、それをカメラで読み取って3次元の物体として再現する。新製品ではステレオ撮影ができる2台のカメラとプロジェクターを組み込んだ一体化装置を自社開発。ロボットなどに設置しやすい。レンズは工業用の汎用のものが使える。装置は画像処理ソフトを組み込んだパソコンに接続して利用する。実際の部品の立体構造と寸法を非接触方式でリアルタイムで読み取れるほか、設計用のCADデータと比較すれば、精度検査が即時・高速にできる。ピッキングの場合は多様な部品が混在する箱からの取り出しでも、必要な部品だけを見分けて間違えずに作業することができる。YOODSでは画像処理ソフトの操作が得意。YOODSでは画像処理ソフトの操作場での導入を見込む。

データと比較すれば、精度検査が即時・高速にできる。ピッキングの場合は多様な部品が混在する箱からの取り出しでも、必要な部品だけを見分けて間違えずに作業することができる。YOODSでは画像処理ソフトの操作場での導入を見込む。

YOODSでは従来はメラなどを使う計測装置文字や画像を読み取り照合する画像検査ソフトを中心に開発、新日鉄住金の製鉄所や家電メーカーで採用されている。6年前から産業技術総合研究所(つくば市)などと3Dシステムの開発に取り組んできており、2台のカメラなどを使う計測装置などの商品化を進めてきたが、このほどロボットに取り付けられる一体型製品を開発した。今回は開発資金のうち、山崎シヤルファイナンス(山口市)のクラウドファンディングで1000万円を調達した。